



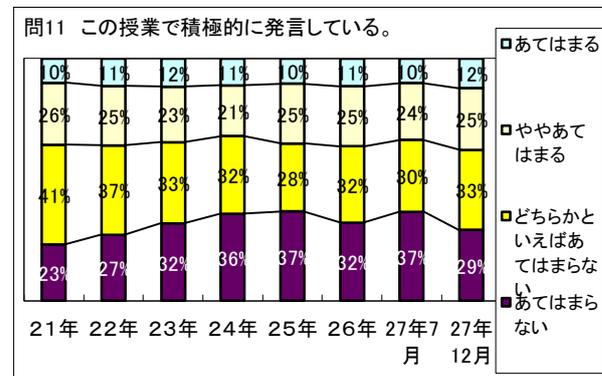
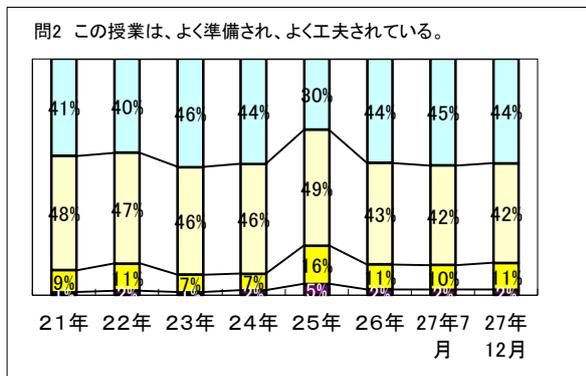
## 授業評価アンケートの結果から ～高大接続改革を見据えて

校長 吉田 亘

昨年12月に、第2回目の生徒による授業評価を実施しました。この授業評価では、各授業の工夫や対応状況と評価基準のあり方、生徒の理解度、知識や技能の定着意識、予習復習等の状況、授業への参加意識などを質問ごとに「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4段階で評価します。その他に授業の進度、分量、難易度については、「速い」「やや速い」「適切」「やや遅い」「遅い」等の5段階で評価します。そして、全生徒の回答を集約し、毎年分析しています。個別の授業評価はもちろんですが、学校としては、学年ごと、教科ごとに経年変化も含めて傾向を把握し、授業改善、教育課程見直し、学習環境整備などの学習改善の基礎データのひとつとしています。

今回、授業については、個別の授業ごとに違いはありますが、授業の工夫や生徒への対応については、全体としては、90%近くの生徒が肯定的（「あてはまる」と「ややあてはまる」）に捉えています。これは、平成21年から大きな変化はありません（問2グラフ参照）。また、授業において「興味関心を抱かせているか」という質問にも80%が肯定的です。

一方で、生徒自身の取り組みについては、「予習復習をしている」は、英数国3教科平均で肯定的回答は、60%でした。逆に40%は否定的（「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」）。全教科平均では、肯定的回答は53%しかありません。学年別では、肯定的回答が1年生45%、2年生56%、3年生63%と学年が上がるともに自分で学習する割合が増えているのは、やはり受験を意識してのことと思われます。また、「授業で積極的に発言している」という質問には、全体で37%しか肯定的回答がありません（問11参照）。学年ごとには、1年生31%、2年生38%、3年生52%と肯定的回答が上がり、積極性が増しています。これは、学習の成果とも考えられますが、授業での発言の少なさは、田高生の課題です。ただ、このことについて、学校運営連絡協議会委員の大学教授からも、「大学生も同様に、集団の中で発言することを苦手とする学生が大変多い」というご意見をいただきました。



現在、文部科学省では「高大接続システム改革会議」が3月の報告を目指して検討を重ねています。そこでは、これからの時代に社会に出て、国の内外で仕事をし、人生を築いていくためには、一人一人が十分な「知識・技能」に加え、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」や「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を身に付けることが重要である（第1回資料「高大接続改革の実現に向けた基本的な考え方と主な課題について」より。傍線は筆者）として、大学教育や高校教育のあり方と大学入試制度の改善を検討しています。

これからの学習には、ただ授業を受けて宿題や課題を提出するだけでなく、生徒が、主体的に学習に取り組み、自分の意見を表現し他人に伝えていく努力が求められています。

田園調布高校として、引き続き授業改善や生徒の思考力を引き出す教材開発を行い、さらに、授業・学習環境の整備を進めていきます。そして、総合的な学力を伸ばすためには、学校行事や部活動などを通して、積極性、計画性、協調性、思考力、判断力などを育成することも重要であると考えています。生徒にも一人ひとりが積極的に授業や行事など学校生活に取り組み、これから社会で求められる力の基礎を固めてもらうことを期待しています。

## 新教科「より良い生き方のために」

副校長 野村 悟

来年度4月から全都立高校では『人間と社会』という新教科を始めることとなります。田園調布高校では新1年生に導入するために、平成26年度から準備を重ねてきました。

この教科の新設にあたっては、東京都教育委員会は「よりよい生き方を主体的に選択し行動する力を育成する」という目的を達成するためと説明しています。

様々な場で言及されているように、これからの社会は、グローバル化が進化し、答えのない問いに対して問われる時代となっていくでしょう。その際、意見や考え、思想などの異なる人々といかにしてコミュニケーションをはかっていくのか、つまり言語能力ということが大きな課題となってきます。

おそらく、その力は一朝一夕で身につくことだけでなく、意図的に、コミュニケーションを図る場面を設定し、養成する必要があるといえます。先の新教科の背景には、答えのない問題と向き合っていくための重要な能力を育成することにあります。

言語能力の育成というこの課題は、近い将来、新教科のみならず、他の教科でも取り組むこととなります。

今年は、縁があって1、2、3年生の生徒に授業を行う場面がありました。その際、いくつかの問題を中心に、生徒たちに「自分ならばどう考えるのか」ということを問い続けました。それは自分の思考を大切にするとともに、周囲の友人たちの考えを尊重し、自分の中でそれらを再吟味すること。認知心理学的に定義するならば、メタ認知つまり方略のための方略への認識ということになります。

それは、自分とは異なる意見や考え前に、どのように向き合っていくのか、またどのように合意を形成していくのか、ということになるのです。

情報を共有しあい、相互の考えを交流させながら、合意を図っていく作業は、ある意味時間や労力の要するしんどい作業です。

しかし、これからの社会は、グローバル化が進み、ますます他者と問題を共有するためにコミュニケーションが必要とされる場面が増えていくでしょう。その能力が必要とされる今、学校の存在は大きいと言えます。

10年後、20年後の社会を想定したときに、その基盤を支えていく若者に、今、出来ることは何か……。

本校は可能性に満ちた学校です。その場を大切にしより良い社会を形成して行ってほしいとせつに願っています。

今後も本校ではさまざまな教育活動が続きます。地域のみなさまを始めとして様々な方に、いろいろとご理解、ご協力をいただくことをお願い申し上げます。1年間、ありがとうございました。

## 生活指導部より

生活指導部 吉田 宣浩

3学期における最大の行事が合唱祭です。2月17日、本校の第9回合唱祭がめぐろパーシモンホールにて開催されました。どのクラスも12月の期末考査終了後あたりから本格的に練習を開始、12月24日には早速第1回目のリハーサルを体育館で行いました。課題曲である校歌のみのリハーサルではありましたが、クラスによってはかなり歌い込んでいる、と思えるクラスもあり、期待を込めて翌日の終業式では「まだ足りないと思うので、冬休み中も頑張ろう！」と声をかけてみました。ところが、冬休み中はあまり練習する姿を見かけず、残念に思っていたところ、案の定1月24日の第2回リハーサルでは、果敢に自由曲にチャレンジしたクラスもあった反面、ほとんどがまだ校歌もままならない、という状態でした。さすがに危機感を覚えたのか、この頃から音楽科の高野瀬先生が引っ張りだことなり、早朝や昼休み、放課後はあちらこちらから真剣な歌声が聞かれるようになりました。2月4日の第3回(最終回)リハーサルでは、全クラス自由曲を演奏しましたが、かなりの完成度になっていました。

そして合唱祭当日。どのクラスも見事なハーモニーで、全校生徒はもちろん、来場された保護者の皆さんも聞き惚れるような歌声が次々と披露されました。審査員の先生方も相当悩まれたようで、ベストコンダクター賞が同点で3名も対象となるほど高レベルとなりました。結果として、金・



銀・銅賞など順位はつきましたが、どのクラスにも賞をあげたい出来映えだったと思います。クラス委員や指揮者、伴奏者、パートリーダーの人たち、実行委員の人たち、ご苦労様でした。それでは、結果を以下にお知らせします。

- |                       |   |                  |
|-----------------------|---|------------------|
| ◎金賞                   | … | 2年C組 (自由曲「はじまり」) |
| ◎銀賞                   | … | 1年A組 (自由曲「証」)    |
| ◎銅賞                   | … | 2年A組 (自由曲「あなたへ」) |
| ◎校歌賞                  | … | 2年C組             |
| ○ベストコンダクター賞 (3名) ※出演順 |   |                  |
|                       |   | ・森川 日菜子 (1年A組)   |
|                       |   | ・鍛冶屋 慎一 (2年C組)   |
|                       |   | ・土井 舞樹 (2年A組)    |
| ○ベストピアニスト賞 (1名)       |   |                  |
|                       |   | ・江守 麻美 (2年E組)    |



## 進路指導部より

進路指導部 荒井 章子

### 大学説明会 10月29日(木)

中間考査最終日の午後に、1・2年生を対象に「大学説明会」を実施しました。参加大学は、筑波大学・東京海洋大学・都留文科大学・学習院大学・北里大学・成蹊大学・成城大学・専修大学・多摩美術大学・中央大学・東洋大学・日本大学・法政大学・明治学院大学でした。生徒たちは、試験最終日でやや疲れも見えましたが、各大学の説明に熱心に聞き入っていました。

### 田高進路プロジェクト2015 テーマ別キャリアガイダンス

#### ① 第3回キャリアガイダンス「公務員のしごと」

11月9日(月)に、大原法律公務員専門学校横浜校の小野澤龍太先生をお招きして、キャリアガイダンスNo.3「公務員のしごと」を実施しました。公務員の仕事の種類、その魅力、公務員試験の現状、公務員を目指すには高校1・2年生の今からどのような準備をすればよいのか、などについてお話していただきました。99名の1・2年生が参加しました。



#### ② 第4回キャリアガイダンス「獣医師のしごと」

12月9日(水)に、井の頭自然文化園 獣医師の田島日出男先生をお招きして、キャリアガイダンスNo.4「獣医師のしごと」を実施しました。獣医師の仕事の内容やその魅力などについて、動物園の動物たちの貴重な映像を交えてお話していただきました。58名が参加しました。



### 平成28年度大学入試センター試験

1月16日(土)・17日(日)に、平成28年度大学入試センター試験が行われました。1月18日(月)に本校で129名が自己採点しました。

《今後の予定》

- 3月 7日(月) テーマ別キャリアガイダンスNo.5「カウンセラーのしごと」  
本校スクールカウンセラー 宮川 千春 先生
- 3月16日(水) 2年生向け進路講演会  
卒業生合格体験記
- 3月17日(木) 1年生向け進路講演会  
ライフプランニング講座

# 1学年より ～何事にもひたむきに前向きに

1年A組担任 玉田 将太

2月に行われたロードワークも天候が心配でしたが、当日は快晴。折り返し後の向かい風の強さが生徒を苦しめましたが、どの生徒も一生懸命走りきる姿を見せてくれました。2年生の先輩のいる中でしたが、1年生は男女ともに奮闘しました。

男子は総合上位20位のうち1年生が11人ランクイン。女子は8人ランクインしました。

1年生トップ3 男子1位 1A大山君 2位 1E國仲君 3位 1A堀越君  
女子1位 1D五十嵐さん 2位 1A中村さん 3位 1D高橋さん  
その中で学年1位の生徒の声を紹介します。

1年生男子1位 1年A組 大山 魁紀 君

学年No. 1の大山です。僕がロードワークで結果が出せたのは時間のある時に近所にある洗足池という池の周りをランニングしたからだと思います。今回は先輩2人に負けてしまって悔しかったので、これからは毎日ランニングして来年は先輩の記録に勝って記録を更新します！



1年生女子1位 1年D組 五十嵐 ちひろ さん

今回私は、たくさんの応援の声に背中を押されて、苦しい6kmを完走することができました。自分に勝つことも大切かもしれませんが、応援してくれている人の期待を裏切りたくないという気持ちも、人を大きく動かせると思いました。

そして、田高3大行事のラストを飾る合唱祭も無事終了しました。練習期間は各クラスでぶつかったり、悩んだりすることもありましたが、それを乗り越え、各クラス一回り成長した行事となったと思います。

1年生での受賞は1年A組が銀賞を受賞！クラス委員の声を紹介します。

合唱祭クラス委員 1年A組 松澤 美佳 さん

心残りの全くない合唱祭だった。最後の最後まで弱音を吐かずにやるべきことを全力でやる1Aは、はたから見たら真面目すぎたのかもしれない。だけど、それが私たち1Aであり、それこそが理想のあり方なのではないかなと思う。1Aのみんなにとっても感謝してるし、このクラスで本当に良かった。ありがとう。

この1年間で66期生1人1人の大きく成長した姿を見ることができ、嬉しく思います。進級してクラスが変わっても、勉強はもちろん、行事にも一生懸命ひたむきに前向きに取り組むことのできる66期生であり続けてくれることを心より願っています。



## 2学年より

2年A組担任 荻原 秀明

2年生の生活が終わりに近づいています。先日、学年最後の行事「合唱祭」が目黒パーシモンで行われました。どのクラスも自分たちで計画や相談をして練習をしました。結果は、2Cが金賞、2Aが銅賞を頂きましたが、どのクラスも思い出深い合唱祭となりました。

授業では、もうすでに考査に向けた気分になって来ています。都立高校の入試があり、実質、末考査直前です。

また、3年生の生活が目前になりました。以前から受験を意識して勉強していた生徒が、新年を迎えた頃からかなり増えたように感じます。この時期は、「3年生0学期」の位置づけでもあり、良い傾向を示しています。個々の3年生に向けた準備は、自由選択科目の登録が12月に終わりました。3月に総合学習の登録が終われば、ほぼ完成です。

これから期待することは、進路実現に向けた「決心」「計画」「実行」です。「スコラ手帳」の有効活用が鍵となるでしょう。(期末考査後に、来年度版を配布します。)

「将来の目標を高く持ち続け、充実した3年生の生活」を期待します。



## 3学年より ～卒業に寄せて

3年A組担任 有馬 聡

いよいよ、ついに、とうとう、卒業です。

「まだ何も書かれていない予定表なんでも書けるこれから書ける」

これは3年前の入学式の際の「学年便り」に引用した俵万智さんの短歌です。「なんでも書ける」ということは、さまざまな可能性が広がっていると同時に、そこに何かを書き入れなければ何も始まらないということであり、つまりは一人ひとりの主体性を問うことばなのではないかといったことをそこに書いたのを、つい最近のことのように思い出します。高校生ですから勉強を頑張るのは当然として、行事や部活動、生徒会や委員会活動……何でも良いから様々なことに自分から積極的に関わってほしいという思いを込めてこの歌を紹介したのですが、果たして如何だったでしょうか。

もちろん一概には言えないのですが、64期生を全体として眺めてみると、いろいろなことに積極的にチャレンジしていたように思います。親の欲目ならぬ担任の欲目かもしれませんが、例えば体育祭やぼろにあ祭なども64期生がその行事の中心にあったときは、より活気にあふれていたように思います。合唱コンクールも然り。また、修学旅行も予想以上に充実した4日間であったように思います。

進路に対する取り組みも、最終的には一人ひとりが真剣に自己の将来を模索し、それぞれ懸命に対策を講じようとしていました。公募制推薦などにも果敢にチャレンジし、一定の成果が出ています。まだ一般入試の結果は詳らかではありませんが、多くの保護者の皆様も入試の前には一心不乱に勉強している姿をご家庭でご覧になっていたのではないかと存じます。

言い古された言葉ですが、卒業は新たなスタートの第一歩です。4月にはそれぞれが異なった環境の中で新しい生活へ足を踏み出します。目の前に大きな壁が立ちはだかることがあるかもしれません。心配や不安があるのは当たり前です。しかしそれ以上に新しい生活への夢や期待があるのは間違いのないと思います。

第64期卒業生の皆さんと保護者の皆様に幸多かれと衷心よりお祈り申し上げます。

### 総務部より

▼12月24日(木)に体育館サブアリーナにて、図書委員会主催のビブリオバトル(書評合戦)を開催しました。1年生では、チャンプ本にC組・山口桜子さんが紹介した『@ベイビーメール』(山田悠介)、演出賞にF組・中川遙奈さんが紹介した『あつあつを召し上がれ』(小川糸)、2年生では、チャンプ本・演出賞ともにC組・館花英由香さんが紹介した『オーデュボンの祈り』(伊坂幸太郎)が、それぞれ受賞しました。

▼12月25日(金)の2学期終業式前に、体育館への避難訓練及び、田園調布警察署の斉藤警備課長をお招きして防災講話を行いました。

▼2月24日(水)に学力検査に基づく入学者選抜・分割前期募集が実施されました。3月10日(木)に同・分割後期募集を実施いたします。選抜日および採点日は校内立入禁止です。選抜日以降は入学手続きで経営企画室の窓口が混雑する日がありますので、ご注意ください。なお、第67回入学式は4月7日(木)に举行します。

▼3月5日(土)に第64回卒業式を举行します。3カ年皆勤は23名、同精勤は7名でした。

▼学校だより「さきはえよ」は、今年度より各学期1回の発行となりました。最終号はいかがでしたでしょうか。紙面のご意見ご感想やご要望がありましたら、総務部までお寄せください。来年度の紙面充実につなげたいと思います。

